

平成26年度 全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技  
第67回全国高等学校バスケットボール選手権大会

(女) 1 回戦

試合日: 2014/08/02  
開始時刻: 14:00~  
会場: 秀明八千代高校  
コート: Jコート  
試合順: 第4試合(女) 1 回戦

Team A		Team B
就実	80	73
(岡山県)		(兵庫県)

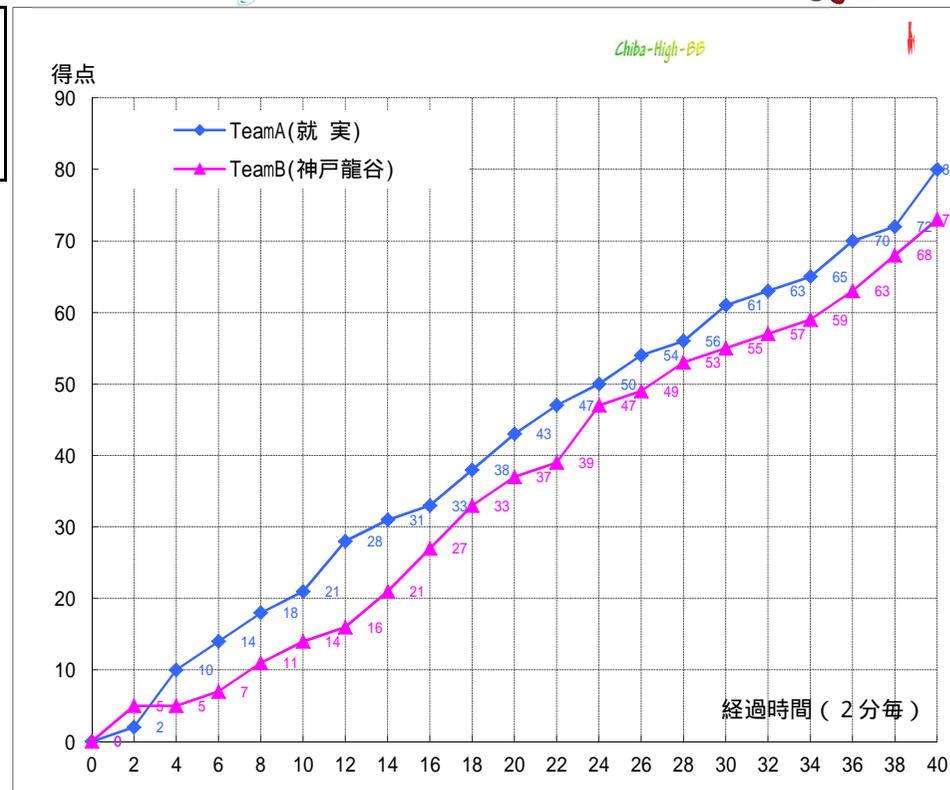
TeamA(就実)

PT	選手名	得点	3P イト		2P イト		FTR-成	反則	リバウンド			アシスト	ブロックショット	ターンオーバー
			成	成	成	成			off	def	計			
4	池上 由真	4	0	2	0	1	1	1	2	0	0	1		
5	藤原 穂香	20	1	8	1	2	1	1	2	3	0	4		
6	藪内 佐規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
7	折居 七海	23	0	6	11	3	5	11	16	0	0	3		
8	藤原 麻衣	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
9	藤本 鈴	18	2	5	2	3	2	4	6	0	0	5		
10	久山 羽菜	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
11	本多 瀬奈	3	0	1	1	3	1	10	11	3	0	4		
12	青木 翔菜琳	12	2	3	0	3	1	4	5	0	0	2		
13	米田 遥菜	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
14	塩見 あずさ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
15	石井 綾音	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
Team / Coach:						0	2	4	6			0		
合計		80	5	25	15	15	13	35	48	6	0	20		

TeamB(神戸龍谷)

PT	選手名	得点	3P イト		2P イト		FTR-成	反則	リバウンド			アシスト	ブロックショット	ターンオーバー
			成	成	成	成			off	def	計			
4	植村 舞子	9	1	3	0	0	2	0	2	0	0	0		
5	毛利 優花	0	0	0	0	3	1	0	1	0	0	0		
6	山下 果歩	0	0	0	0	1	2	1	3	0	0	1		
7	今倉 実乃里	16	0	6	4	2	4	3	7	1	1	0		
8	伊藤 綾乃	15	0	6	3	1	0	2	2	0	0	3		
9	川口 莉彩	7	0	3	1	4	3	2	5	2	0	1		
10	菰方 智恵子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
11	白川 万理	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
12	足立 瑠美	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
13	小西 楓	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1		
14	藤田 夏生	17	3	4	0	1	3	3	6	2	1	0		
15	岡田 あず	9	0	4	1	2	1	1	2	0	1	4		
16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
Team / Coach:						0	5	7	12			1		
合計		73	4	26	9	15	21	19	40	5	3	10		

T0/CK/SS 千葉県高体連バスケットボール専門部高校バスケットボール部



タイムアウト

	前半(1-2P)リフト	後半(3-4P)リフト	延1	延2	延3	延4
TeamA	14:15	-:-	-:-	-:-	-:-	-:-
TeamB	5:37	12:30	28:03	33:30	38:26	

【戦評】

試合開始早々、就実は#5藤原のドライブシュートやミドルシュートで得点した。それに対し、やや固さの見られる神戸龍谷であったが#7今倉のゴール下シュートや#15岡田のファーストブレイクなどで応戦した。両チーム立ち上がりはマンツーマンディフェンス。第1P、就実は#5藤原、#7折居、そして1年生の#12青木を中心に3Pやミドルシュート、ドライブシュートとバランスよく得点を伸ばしていく。第2P、神戸龍谷は1-2-2ゾーンプレスを含む変則的なゾーンディフェンスを仕掛け相手のリズムを乱し、徐々に点差をつめてく。しかし、就実も少ないシュートチャンスを確実に決め、両者一歩も引かず就実6点リードで前半終了。第3P、神戸龍谷は引き続きマンツーマンディフェンスとゾーンディフェンスを駆使し、スティールから速い展開で攻め込んでいく。神戸龍谷#14藤田と#15岡田の1年生コンビの活躍もあり、一時その点差は1点にまで縮まった。しかし、就実も確立の高いシュートを淡々と決めていき、逆転を許さない。特に後半になって就実#7折居のペイントエリア内での力強いプレーは際立っており、フリースローも確実に決めた。ベンチも含めて、終始チーム一丸となって声を掛け合い戦った神戸龍谷であったが、最後は就実がその猛追を退けた。

審判	山崎 雅洋 / 堂野 正博 /	戦評	嶋村 拓也
----	-----------------	----	-------